

## 2.4 建築学専攻

### (1) 教育方針

---

① 専攻における研究・教育の必要性

建築学は人類の生活に関与する多様な学術分野を担っており、地球環境の永続的な発展と文化の創造に対して大きな責任を負っている。高度な機能を有し、安全・安心を維持し、文化創造を推進するための多様な建築空間の実現が現代社会において求められている。

② 教育の目的

建築学における計画・構造・環境の各分野の基礎的部門の教育と先端的研究を推進するとともに、建築を自然環境と生活環境のなかで総合的・実践的に捉え直し、既成の専門分野にとらわれずに分野横断的で幅広い専門的知識と創造性を修得させる。

③ 教育の到達目標

建築学に関する基礎的・実践的教育により、建築を総合的な幅広い視点から捉えることができ、国際性と創造性、研究の推進能力、研究成果の論理的説明能力、豊かな教養と高い倫理性を備え、また成果と意義を国際的な水準で議論する能力、自ら課題を発見し解決する基本的能力と意欲を有する高度技術者、研究者を育成する。

### (2) 修了に必要な単位

---

科目区分	単位数
コア科目	0 単位以上
Major 科目 (基礎科目)	8 単位以上
Minor 科目 (発展科目)	0 単位以上
ORT 科目	10 単位以上
その他の科目	必要に応じて指導教員の指導・承認を得て履修
合計単位	30 単位以上

【注意事項】

- 1) 課程を修了するためには、科目区分毎に指定される単位数を満たし、かつ合計単位数を満たす必要がある。

### (3) 履修モデル

---

入学当初の履修ガイダンス時に資料に基づいて説明する。

(4) 科目標準配当表 (建築学専攻 (修士課程) )

科目 コード	科目名	担当教員	毎週時数		単位	科目区分			
			前期	後期		コア 科目	基礎 科目	発展 科目	ORT 科目
10B014	建築環境計画論 I	三浦	2		2		○		
10B037	建築設計力学	竹脇	2		2		○		
10B231	*高性能構造工学	聲高		2	2		○		
10B032	応用固体力学 I	大崎	2		2		○		
10B033	応用固体力学 II	大崎		2	2		○		
10B222	環境制御工学特論	原田	2		2		○		
10B024	生活空間学特論	竹山		2	2		○		
10B015	建築環境計画論 II	吉田		2	2		○		
10B035	人間生活環境デザイン論	神吉	2		2		○		
10B036	建築史学特論	富島		2	2		○		
10B013	*建築設計特論	平田		2	2		○		
10B016	*建築論特論	田路		2	2		○		
10B019	*建築プロジェクトマネジメント論	金多		2	2		○		
10B038	人間生活環境認知論	石田		2	2		○		
10B040	構造解析学特論	大崎		2	2		○		
10B043	コンクリート系構造特論	西山・谷		2	2		○		
10B044	耐震構造特論	西山・谷	2		2		○		
10B234	鋼構造特論	聲高・高塚	2		2		○		
10B052	構造安全制御	(防災研)池田・倉田		2	2		○		
10B046	建築振動論	林・(防災研)西嶋	2		2		○		
10B241	都市災害管理学	(防災研)松島・(防災研)西野		2	2		○		
10B238	建築風工学	(防災研)丸山・(防災研)西嶋		2	2		○		
10B069	*建築技術者倫理	西山・神吉・(防災研)牧・大谷・(防災研)西野		2	2		○		
10B053	建築環境物理学特論	小椋	2		2		○		
10B226	建築地盤工学	竹脇		2	2		○		
10A832	構造材料特論	金子	2		2		○		
10A856	居住空間計画学	柳沢	2		2		○		
10B100	静粛環境工学	高野・大谷	2				○		
10B259	音響空間設計論	大谷・高野		2	2		○		
10X401	デザイン方法論	(デザイン)中小路・三浦・神吉・牧		2	2		○		
10X412	建築・都市デザイン論	神吉・竹山・平田 他		2	2		○		
10X413	建築構造デザイン論	林・杉野 他	2		2		○		
10A845	★環境デザイン論	(地球環境)小林		2	2			○	
10i017	◎建築学コミュニケーション(専門英語)	(非常勤講師)ツオイ・竹山	2		2			○	
10i045	#◎実践的科学英語演習 I	(GL)西川・田中・松本・蘆田・前田	(2)		1			○	
10i042	#◎工学と経済 (上級)	リントゥルオト		2	2				
10B088	建築学総合演習	所属分野教員	(4)	(4)	4				必修
10B062	建築学特別演習 I	所属分野教員	(2)	(2)	2				必修
10B063	建築学特別演習 II	所属分野教員	(4)	(4)	4				必修
10i010	#工学研究科国際インターンシップ 1	(GL)西川、関係教員		集中	1				
10i011	#工学研究科国際インターンシップ 2	(GL)西川、関係教員		集中	2				
10i049	#◎エンジニアリングプロジェクトマネジメント	(GL)松本・田中・蘆田・前田・リントゥルオト	2		2				
10i059	#◎エンジニアリングプロジェクトマネジメント演習	(GL)松本・田中・蘆田・前田・リントゥルオト		(4)	2				
88G101	b 研究倫理・研究公正 (理工系)	(教育院)伊藤・(教育院)加藤・川上	集中		0.5				
88G201	b 学術研究のための情報リテラシー基礎	(教育院)喜多	集中		0.5				
88G203	b データ科学：理論から実用へ I	(非常勤講師)島谷	集中		1				
88G204	b データ科学：理論から実用へ II	(非常勤講師)中野	集中		1				
88G301	b ◎大学院生のための英語プレゼンテーション	(教育院)RYLANDER	集中		1				

科目 コード	科目名	担当教員	毎週時数		単位	科目区分			
			前期	後期		コア 科目	基礎 科目	発展 科目	ORT 科目
10B071	*インターンシップⅠ（建築）	神吉・吉田	(4)	(4)	4				
10B073	*インターンシップⅡ（建築）	神吉・吉田	(4)	(4)	4				
10B075	*建築設計実習	平田	6		6				
10B077	*建築設計演習Ⅰ	田路	4		4				
10B079	*建築設計演習Ⅱ	竹山		4	4				
10B081	*建築工事監理実習	金多・(非常勤講師)水川		2	2				
10B099	研究論文（修士）								必修

-凡例-

◎英語科目 ★他研究科科目 \*建築士受験資格における実務経験に該当する科目 #工学研究科共通型授業科目 ｂ大学院共通・横断教育科目

- 「建築学総合演習」「建築学特別演習Ⅰ，Ⅱ」「研究論文（修士）」は必修である。
- 上表以外の科目で、他専攻・他研究科科目、その他建築学専攻で認めた学科目については、履修登録時に指導教員の指導の下で専攻長の承認を得ることによって、4単位まで修了に必要な単位として認定する。日本語教育科目については修了に必要な単位としては認定しない。
- 「建築学特別演習Ⅱ」は、「建築学特別演習Ⅰ」を修得した後に履修することを原則とする。ただし、やむを得ず同一年度に履修する場合には、履修登録時に指導教員と専攻長の承認を受けること。
- 「建築学総合演習」の履修は、2年間を原則とする。
- 建築士受験資格における実務経験に該当する科目のうち、「インターンシップⅠ（建築）」「インターンシップⅡ（建築）」「建築設計実習」「建築設計演習Ⅰ」「建築設計演習Ⅱ」「建築工事監理実習」は、修了に必要な単位としては認定しない。
- 「工学と経済（上級）」は、修了に必要な単位としては認定しない。
- 平成26年度以前の入学者に対して開講していた「建築情報システム学特論」は平成30年度は開講しない。平成31年度以降の開講は未定である。
- 平成27年度以前の入学者に対して開講していた「建築設備システム特論」は平成30年度は開講しない。
- 「音響空間設計論」は、平成26年度以前の学修要覧への記載がないが、これらの年度の入学者にも修了に必要な単位として認定する。
- 「静粛環境工学」は、平成29年度以前の学修要覧への記載がないが、これらの年度の入学者にも修了に必要な単位として認定する。
- 「デザイン方法論」「建築・都市デザイン論」「建築構造デザイン論」は平成24年度以前の学修要覧への記載がないが、これらの年度の入学者にも修了に必要な単位として認定する。
- 平成28年度以前の入学者に対して開講していた「音環境設計論」は平成30年度は開講しない。
- 平成28年度以前の入学者に対して開講していた「建築環境調整学」は平成30年度以降は開講しない。
- 平成29年度以前の入学者に対して開講していた「建築都市文化史学特論」は平成30年度は開講しない。
- 「工学研究科国際インターンシップ1」「工学研究科国際インターンシップ2」「エンジニアリングプロジェクトマネジメント」「エンジニアリングプロジェクトマネジメント演習」は、修了に必要な単位としては認定しない。
- 「研究倫理・研究公正（理工系）」「学術研究のための情報リテラシー基礎」「データ科学：理論から実用へⅠ」「データ科学：理論から実用へⅡ」「大学院生のための英語プレゼンテーション」の5科目については、合計で2単位までを修了に必要な単位として認定する。
- （教育院）は国際高等教育院を意味する。
- 科目内容の詳細（シラバス）については、工学研究科ホームページ（URL:<http://www.t.kyoto-u.ac.jp/syllabus-gs/>）を参照すること。